



会報 SHINSHIYOU

神私幼

平成25年3月1日
第183号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会
発行人：会長 渡邊 真一
編集人：神私幼総務部(広報室)
発行：年4回(6月・9月・12月・3月)
発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



平成24年度 幼稚園教育経営研修会開催



INDEX

2・3

会長のことば
24年度を振り返る
3つの大きな事業中心のこの一年！
●幼稚園連合会会長 渡邊 真一

連載 副会長に聞く
第3回 私の考える県連合会 ●副会長 大澤 一之
幼保一体化問題学習会 報告
新制度の理解深めていますか Part2
～幼稚園教育を守るために～ ●県連理事 山口 繁美

4・5

2012年を振り返って 事業部次長に聞きました

- | | |
|------------------|----------------|
| ●総務部 次長 仁藤 一成 | ●経営管理部 次長 池田 清 |
| ●研修事業部 次長 山田 まり子 | ●研究部 次長 高 方子 |
| ●振興部 次長 石井 和則 | |

研究部・研修事業部報告

6 研究特別委員会A部会報告

●平和学園幼稚園 橋 明子

研究特別委員会B部会報告

●なかよし幼稚園 菅野 清孝

公開研究保育報告 今年度公開保育を終えて

●白山幼稚園 志村 雄治

7 シリーズ

地区協会長は考える 第3回

●相和協会 協会長 磐川 浩

幼稚園教育経営研修会が開催されました

●総務部長 安西 透

8 研修会報告／後継者育成研修会報告／ 102条園研修会報告

会長のことば

24年度を振り返る

三つの大きな事業中心のこの一年！



県連合会 会長

渡邊眞一

日頃は県連合会の運営ならびに活動に対しても深いご理解とご協力を賜りまして感謝申し上げます。また、おかげさまで「ようちえん会館」の利用も多く、県連としてうれしいかぎりです。

さてこの一年は、国の「子ども・子育て関連三法」への対応、そして関東地区教員研修神奈川大会の開催、公益社団法人の申請と三つの大きな事業を中心、連合会が一つになつて事業展開に取り組んできました。

以下、この一年を振り返つてみます。

文部科学省は二月十九日、三ヶ月の間、県連合会を三月中に設置する方針を固めました。参議院選挙前の六月までに中間報告をまとめるとして、県当局では平成二十五年度の本府機関再編に伴い、県民局の「総務部・県民活動部・くらし文化部・青年部」の四部体制を総務室・くらし県民部・次世代育成部の一室二部体制にするようです。保健福祉局・福祉次世代育成部にあつた次世代育成課と子ども家庭課の二課を県民局に移設し、次世代育成部とし、青少年課・私学振興課（学事振興課から名称変更）の四課体制とする案です。すくなくとも平成二十七年度に向かい幼保の窓口を一本化対策につなげたい考へのようです。

さて平成二十四年度は八月二・三日の二日間、横浜みなとみらい地区パシフィコ横浜国立大ホール他にて、第二十七回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会を開催し、関東地区八県から三三三五人の教職員をお迎えし、盛大に開催できました。

年振りの大会でしたが、各部そして十二協会の先生方のご協力を賜り、十分なる成果のあつた大会になりましたこと、改めてお礼を申し上げますとともに、連合会の組織力のある姿を再確認いたしました。

さて平成二十四年度は連合会組織の見直しをしました。公益社団の会務が円滑にすすむよう、各部・十二協会との連携を強くお願いしたいところです。又、二十四年度は人材確保のための就職相談会、若手後継者のための保育勉強会と次代を見据えた事業展開も実施し、連合会として今後も必要な事業があれば、できるかぎり対応していきたいと考へております。

平成二十四年度は連合会組織の見直しをしました。公益社団の会務が円滑にすすむよう、各部・十二協会との連携を強くお願いしたいところです。又、二十四年度は人材確保のための就職相談会、若手後継者のための保育勉強会と次代を見据えた事業展開も実施し、連合会として今後も必要な事業があれば、できるかぎり対応していきたいと考へております。

会としてどう対処するか検討してまいりました。連合会として公益性の高い事業の展開を核として、平成二十四年度は、公益法人申請を県公益認定等審議会に提出。審議の結果、さる一月十日、認定基準に適合するとの答申が示されました。他校種が前年度比を下回る（九二・六九八・七%）なか、私立幼稚園は前年度比一〇一・七%で費の概要（平成二十五年度当初予算案）が示されました。他校種が前年度比を

あつたことを報告します。一段と県財源が厳しくなるなか、県当局のご配慮に感謝申し上げます。詳しいことは「神私幼ニュース」のとおりですのでご一読ください。

平成二十五年度からは、「公益社団法人」としての運営がスタートします。公益性をどうキープしながら公益法人としての核を創りはじめるか、その基礎づくりの真価が問われる一年になります。

次世代に連合会の歴史がバトンタッヒでくるようにと考えるところです。同時に、先輩のご苦労と先見性の中で生まれました「社団法人」の歴史に幕を閉じることに一抹のさびしさを覚えるとともに、この機会にお礼を申し上げ、次世代に連合会の歴史がバトンタッヒでくるようにと考えるところです。

平成二十五年度から公認社団法

1 国と県当局の動き

文部科学省は二月十九日、三ヶ月の間、県連合会を三月中に設置する方針を固めました。参議院選挙前の六月までに中間報告をまとめるとして、県当局では平成二十五年度の本府機関再編に伴い、県民局の「総務部・県民活動部・くらし文化部・青年部」の四部体制を総務室・くらし県民部・次世代育成部の一室二部体制にするようです。保健福祉局・福祉次世代育成部にあつた次世代育成課と子ども家庭課の二課を県民局に移設し、次世代育成部とし、青少年課・私学振興課（学事振興課から名称変更）の四課体制とする案です。すくなくとも平成二十七年度に向かい幼保の窓口を一本化対策につなげたい考へのようです。

さて平成二十四年度は八月二・三日の二日間、横浜みなとみらい地区パシフィコ横浜国立大ホール他にて、第二十七回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会を開催し、関東地区八県から三三三五人の教職員をお迎えし、盛大に開催できました。

年振りの大会でしたが、各部そして十二協会の先生方のご協力を賜り、十分なる成果のあつた大会になりましたこと、改めてお礼を申し上げますとともに、連合会の組織力のある姿を再確認いたしました。

会としてどう対処するか検討してまいりました。連合会として公益性の高い事業の展開を核として、平成二十四年度は、公益法人申請を県公益認定等審議会に提出。審議の結果、さる一月十日、認定基準に適合するとの答申が示されました。他校種が前年度比を下回る（九二・六九八・七%）なか、私立幼稚園は前年度比一〇一・七%で費の概要（平成二十五年度当初予算案）が示されました。他校種が前年度比を

あつたことを報告します。一段と県財源が厳しくなるなか、県当局のご配慮に感謝申し上げます。詳しいことは「神私幼ニュース」のとおりですのでご一読ください。

平成二十五年度からは、「公益社団法人」としての運営がスタートします。公益性をどうキープしながら公益法人としての核を創りはじめるか、その基礎づくりの真価が問われる一年になります。

さて平成二十四年度は八月二・三日の二日間、横浜みなとみらい地区パシフィコ横浜国立大ホール他にて、第二十七回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会を開催し、関東地区八県から三三三五人の教職員をお迎えし、盛大に開催できました。

年振りの大会でしたが、各部そして十二協会の先生方のご協力を賜り、十分なる成果のあつた大会になりましたこと、改めてお礼を申し上げますとともに、連合会の組織力のある姿を再確認いたしました。

会としてどう対処するか検討してまいりました。連合会として公益性の高い事業の展開を核として、平成二十四年度は、公益法人申請を県公益認定等審議会に提出。審議の結果、さる一月十日、認定基準に適合するとの答申が示されました。他校種が前年度比を

副会長に聞く

第3回

副会長に聞く

連載

県連の役目を考える

今年度より副会長に就任した五名の先生方に「私の考える県連の在り方や役割について」という観点からご意見をいただき、シリーズでお送りします。

副会長(研究事業部担当)
大澤一之

子ども・子育て新制度委員会 報告 新制度の理解深めていますか ～幼稚園教育を守るために～

Part2

理事
山口繁美

今年度より「新制度」に対する連合会としての対応状況を加盟園に知らせてほしいとの依頼を受けてきました。そこで、前号では学習会の開催と平成二十七年度の新制度スタートまでの国や自治体の対応の状況を述べました。今後も加盟園の皆様へお知らせする機会があることを予想し、今回は「パート2」としました。

◎連合会としての対応の現状
新制度への対応を二つの視点から考えてみます。そこで、前号では学習会の開催と平成二十七年度の新制度スタートまでの国や自治体の対応の状況を述べました。今後も加盟園の皆様へお知らせする機会があることを予想し、今回は「パート2」としました。

平成十八年に公益法人制度改革が提唱され、以来公益法人制度改革に連合会としての対応をしてきました。この結果、第一段階の二点の方向性で進めます。その結果、第一段階として四つの各々の姿が見えて来るのではないかと思われます。

委員会では他に、各協会の情報交換もなされています。

平成二十四年度は連合会組織の見直しをしました。公益社団の会務が円滑にすすむよう、各部・十二協会との連携を強くお願いしたいところです。又、二十四年度は人材確保のための就職相談会、若手後継者のための保育勉強会と次代を見据えた事業展開も実施し、連合会として今後も必要な事業があれば、できるかぎり対応していきたいと考へております。

平成二十四年度は連合会組織の見直しをしました。公益社団の会務が円滑にすすむよう、各部・十二協会との連携を強くお願いしたいところです。又、二十四年度

2012年を 振り返って

事業部次長

に聞きました

雪務局に貢いで頂きましたが、併とが一年間やつて参りました。最近になりやつて直ぐ今会の仕事美びつゝ一矢三ノノ。

次長 一年目として 仁藤一成



昨年四月に突如、総務部次長の挙命を受け、驚くと共に務まるのであるか？と思いながら、初年度の事業が始

最後になりますが、平成二十五年度は全県大会の年になります。ご参加、ご協力の程よろしくお願ひします。



研究部所属が長く、総務部に関しては全く分からず、安西総務部長や事務局の皆さんのレクチャーを受け、おぼろげに全体を把握するのが精いっぱいでした。

会 公益社団法人への移行の一大事業の年でした。夏の教研大会は、諸先輩方並びに事務局の準備、関係各位の皆様のご尽力により、大過なく終える事が出来ました。

また、長年の懸案でありました公益社団法人認可に関しても、渡邊会長以下皆様方のご協力により、良いご報告を出来る運びとなりました。

私自身は、諸先輩方、会員の皆様、

喜びを感じています。

毎年恒例の統合基礎講座。講師の上原文先生の絶大な人気もあり、毎年バージョンアップする内容も相まって、好評の内に全四回が終了しました。上原先生のお話を聞きながら、自園の在り方を考える大切な時間を過ごしていました。また、すっかり定着し需要も年々増える免許状更新講習。二地区で行われた公開研究会。全三回行われた「園内研修」連続研修会等。どの会も参加者の真剣なまなざし、そして、みんなで協力し立ち働く部員の姿が印象的で、たくさんの皆様の思いや力を感じ、共に過ごせた一年に心より感謝申し上げます。



渡邊会長の研究室に対する熱い思いと近年、研究部が担う課題や事業が増してきたことから、今年度は研究部・研修事業部の二つの部に分かれてスタートしました。

月一回の定例会では、初めに両部員合同の委員会を行い、双方で行つてい る事業の情報交換をして互いに理解を深め、その後それぞれの部に分かれて

も開催の都度 受講者からの振り返りシート（アンケート）で声を聞き、その後につなげてきましたが、今年度からは更に三段階評価も受け、質の向上に努めました。

時間の忙しさはありますが、部会に参加したり研究部事業を担当したりしたことで、大きな学びとなつた一年間でした。

この一年、経営管理部の先生方との
部会、勉強会で共有した求人難に伴う
話題には実に刺激的な言葉が並びまし
た。示唆に富んだ本音の語り合いの中
に、明日の私立幼稚園への道標があり
ました。

保育施設のパイの拡大に伴う求人が
増しています。幼稚園からの求人が非
常に多いこちらも、平成二十四年度

た経管部員の先生方にこの場を借りて
心より感謝と御礼を申し上げます。そ
して引き続き来年度も宜しくお願ひ致
します。

お互いの「心の風景」を語れる場
学びあえる場。そして学んだことを情
報発信して形にしていく場。そんな経
営管理部会を皆様と共に。一年間あり
がとうございました。

詳細な事業計画や事業報告を話し合ってから会を進めています。また、今年度は関東地区教員研修神奈川大会の二十三のフォーラムと「ほいくの宝箱」の運営準備という大きな役割も同時に進

経営管理部
採用難時代を
迎え、雑感あれこれ

池田 清



この一年を振り返り、何といつても子ども子育て新制度の問題が一番の注目すべき課題だったのではないでしようか。昨年十二月の政権交代により、国の動きが流動的で先の見通しが不透明な中、将来の幼稚園経営をどのように方向に舵を切っていくたらよいのか、とても大きな岐路に立たされます。認定こども園になつて施設型給付を受けるのか、現状のままでいくのか、いくつかの選択肢の中、新制度の具体的な中身は不透明のままです。認定こども園の場合、基礎自治体が実施主体となるため、今後幼稚園が認定を受ける際に、その地域の実情に合った計画を市町村と策定していくことが大きな壁となりそうです。

と社会保障の問題とも関連してくるため、まだまだ課題は山積です。

平成二十五年度は幼稚園の将来を決断すべき年になるため、振興部では引き続き、より早く新制度の動向や情報を収集し提供できるように努めています。

平成二十四年度を振り返り、研修事業に携わる私たちにとって激動の日々であったと感じます。

その一つ目は、部を研修事業部と研究部の二つに分け、それに伴い、各協会、各地区のお力添えを頂き、たくさんの部員を迎えたことがあげられます。多くの事業を抱えながらもスムーズな運営が行えたことは、経験豊かな各部員の「より良い研修を」との思いの表れであつたと強く感じます。

二つ目は、県連としても大きな事業であつた関東地区教員研修神奈川大会への取り組みです。実行委員、事務局員を始め、たくさんの方々の力が集結し、これもまた、みんなの思いが詰まつた大会運営であつたと思っています。充実した研修内容、心に響く大会、そんな素敵なかいの一端を担えたことに



と社会保障の問題とも関連してくるため、まだまだ課題は山積です。

平成二十五年度は幼稚園の将来を決断すべき年になるため、振興部では引き続き、より早く新制度の動向や情報収集し提供できるように努めていきます。

研修会報告

研究部主催 研修事業部主催

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
12/1(土)	免許状更新講習会 (選択)	かながわ ようちえん会館	白百合女子大学 教授 五十嵐一枝 先生	「集団における子どもの個性へのとらえ方と対応」	43人
12/15(土)			白百合女子大学 教授 秦野 悅子 先生	「保護者との信頼関係を築くために」	
12/19(水)	10年経験者研修会	かながわ ようちえん会館	白百合女子大学 教授 鈴木 忠 先生 白百合女子大学 教授 宮下 孝広 先生	「子どもの描画から見る発達を保育に生かす」「生涯発達の基礎としての幼児期の学びと子どもの意欲」	43人
12/19(水)	東京大学名誉教授・青山学院大学教授 佐伯 肇 先生	「倉橋惣三とレッジョ・エミリアの保育思想」	48人		
1/19(土)	幼稚園教育経営研修会 「私立幼稚園の 明日への展望 ~制度改革による私立幼稚園の方向性と保育の資質向上のための人材確保について考える~」	かながわ ようちえん会館	文部科学省初等中等教育局幼稚園教育課専門官 相原 康人 氏	講演「子ども・子育て関連3法について」	110人
1/23(水)	藤沢オープン講座	藤沢市民会館 第2展示集会ホール	全日本私立幼稚園連合会経営研究委員会 副委員長 岡部 圭三 先生	パネル・ディスカッション 「就職したいと思う幼稚園とは?」	
1/31(木)	第2回公開研究保育	宮崎台幼稚園	玉川大学准教授 大豆生田 啓友 先生	公開保育	
1/25(金)	102条園研修会	かながわ ようちえん会館	(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 田中 雅道 先生	「これからの幼稚園教育」	34人
2/1(金)	厚木オープン講座	厚木文化会館 集会室	前文部科学省幼児教育課調査官 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子 先生	「小学校教育との接続」	36人
2/5(火)	横浜オープン講座	かながわ ようちえん会館	絵本作家 西巻 茅子 先生	「私-絵本-こども」	71人
2/13(水)	後継者育成研修会	かながわ ようちえん会館	一般社団法人環境共創イニシアチブ 主査 森田 宏利 氏	「こんな補助金もあります。BEMS」	20人
2/26(火)	若手後継者のための 保育勉強会	かながわ ようちえん会館	玉川大学教育学部乳幼児発達学科 教授 若月 芳浩 先生	「後継者という立場から、どう保育に関わって いいか ~あなたならどうする?」	50人 (予定)

後継者育成研修会報告

川崎めぐみ幼稚園 鈴木 淳

『こんな補助金もあります』

-エネルギー管理システム導入促進事業費補助金(BEMS)-

BEMS(Building Energy Management System)とは、ビル等の建物内で使用する電力使用量等を計測蓄積し、導入拠点や遠隔での「見える化」を図り、空調・照明設備等の接続機器の制御やデマンドピークを抑制・制御する機能等を有するエネルギー管理システムのことです。BEMSアグリゲータが事前にSii(一般社団法人環境共創イニシアチブ)に登録を受け、補助事業者に提供することができる機器・システムを言います。中小ビル等の高圧小口の電力需要家におけるBEMSの導入を促進し、エネルギー使用の効率化および電力需要の抑制を図ることにより無理のない節電を進め、電力消費量の削減を図ることを目的としています。

小規模の幼稚園などでは、あまり効果は見えないかもしれません、中規模や大規模の幼稚園では電気の消し忘れや一斉に空調を利用する時などに効果が見られています。

補助金を申請する事業者は、BEMSアグリゲータからBEMSを導入し、1年以上のエネルギー管理支援サービスの契約を行う場合、一定の条件をみたすことでBEMS導入費用の一部について補助を受けることができます。

102条園研修会報告

102条園プロジェクト委員会
委員長 相模原協会 溝渉 真澄

平成25年1月25日、かながわようちえん会館にて、34名の各地区代表者参加のもと、「平成24年度102条園研修会」が開催されました。

今回は、講師として全日本私立幼稚園連合会幼保一体化対策本部役員・財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 田中雅道先生をお招きし、「これからの幼稚園教育」と題し、講演をしていただきました。

田中先生には、今私たちにとって最も大きな課題となっております「子ども子育て3法案」について具体的な話をわかりやすく説明していただき、またなかなか聞くことの出来ない102条園に関してのお話もしてくださいました。

当委員会は県下各協会からの代表者が各1名集まり、年3回の会合と1回の研修会を行っています。102条園、とりわけ個人立幼稚園は経営的に厳しい状況に置かれている園が多いなか、これからも新システムに関しての情報収集と交換をしていきたいと思っています。

県下の102条園にあります、新システムに対しての疑問等がありましたら、各協会の代表者に話していただければ、この会でも議題にあげて研究していこうと思います。

これからも当委員会をよろしくお願い申し上げます。

From the Public Relations Section

編集後記

こうして県連会報が出来上がります

現在、年4回発行している神私幼会報は年間発行マスターPLANに基づき計画性をもって制作するよう努力しています。おおむね発行2ヶ月前に編集方針書を作成し、委員会を開催。構成や取材内容を決定後、原稿依頼、取材活動などを実行し、約2週間後に素材を集積しレイアウトを行います。この間はすべてメールで行います。原稿、写真、図画、グラフ等は電子情報によって配信、収集します。これにより即時性、情報の共有化が可能となりました。いったん全ての情報が県連事務局の情報処理センターに集められ、内容を確認の上、石黒印刷の編集者に送信されます。その後数回にわたるPDF添付ファイルにての文字の校正(3校正)・

色彩の校正(色校)を行い、いよいよ印刷となります。製本後、発送作業を経て、発行日3日前に皆様のお手元に到着いたします。隅々までご愛読ください。目に見えない苦労をしながら作っていますので。(広報室一同)

会報「神私幼」送付先一覧

- ①県連加盟園589園(2部)
- ②神奈川県知事
- ③県学事振興課
- ④全ての神奈川県議会議員
- ⑤県下全12協会事務局
- ⑥47都道府県私立幼稚園事務局
- ⑦神奈川県教育委員会
- ⑧県下、教育委員会
- ⑨県下の保育専門学校、短大、大学、大学院
(幼稚園教員養成課程のある教員養成機関)
- ⑩その他

